

# 道徳科 授業デザインシート

令和7年10月24日 第5校時 1年

1 主題名 自分の行動に責任を〔A（1）自主、自律、自由と責任〕

2 教材名 「裏庭での出来事」（出典：「新しい道徳1」東京書籍）

## 3 本授業に込めた教師の願い

### （1）道徳的価値について（学習指導要領との関わり）

内容項目「A（1）自主、自律、自由と責任」は、自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつことである。「自主的に考え、判断する」とは、他人の保護や干渉にとらわれずに、善悪に関わる物事などについていくつかの選択肢の中から自分で最終的に決めることであり、「誠実に実行する」とは、すがすがしい明るい心で、私利私欲を交えずに真心を込めて具体的な行為として行うことである。本授業で中心として扱う「その結果に責任をもつ」については、ある行為により生じた自分が負うべき義務を良心的に忠実に果たすことであり、「責任」とは、ある人の行為がある事態に対して原因となっているとされる場合、生じた結果に対して応答し、対処することであるとされている。つまり、自らの意志や判断に基づいた行動には、その結果に対して応答し対処する「責任」が求められる。

中学生の時期は、周囲を気にして他人の言動に左右されてしまうことも少なくないが、学年が上がるにつれて、自我が目覚め、自主的に考え、行動することができるようになる。自由を求める傾向が強くなる一方、自由の意味を履き違えて、社会の規範を顧みない生活を送ったり、自分自身の行為が自分や他者にどのような結果をもたらすかということを深く考えないまま、無責任な言動をとったりすることもある。生徒が自主的に考え行動することに心地よさを感じ、その自律的で自由な生き方に自信をもてるようになるためには、どのような小さな行動や行為に対しても、自ら判断して決定したことの自覚や、その結果に対して責任をもたなければならないことの実感が必要となる。

そこで、日常のどのような小さな行動や行為においても、自ら考え判断し、その結果に対して応答し対処する「責任」をもたなければならないことを実感できるようにするために、本授業を通して、結果に責任をもつことの大切さやよさについて考え、責任をもつための考え方や判断について議論していくことが大切であると考える。

### （2）本授業に至るまでの生徒の学びに関する気づき

本学級の生徒は、

省 略

これらのことから、本授業を通して、自分の行動一つ一つの結果に自分の責任があることを理解し、人間が自ら責任をもとうとする理由について理解を深め、自分の意志で誠実に行動しその結果に責任をもとうとする道徳的判断力を育成したい。

### （3）教材の概要とよさ

本教材は、二度ガラスを割ってしまった中学生三人による三者三様の判断と行動をめぐるものである。本教材を活用し、自身の失敗を一度はごまかしてしまった健二の葛藤に共感して自分だったらどうするかを考えたり、健二が周囲に流されず葛藤を乗り越えたときの考え方や感じ方について考えたりすることを通して、責任をもつことの理解や行動の結果に責任をもつよさについての理解を深め、自分の意志で誠実に行動しその結果に責任をもとうとする道徳的判断力を育成する。

失敗をごまかした経験について話し合うことで、結果に対して不誠実な行動をとったことのある経験が誰にもあることを確認し、自分の行動の結果に対して責任をもつことの難しさやよさについて問題意識をもつことができる。また、健二が先生に報告しにいかどうかの葛藤に対して、自分自身ならどうするかを投影的に考えることで、自分の失敗を認めることや向き合うことへの難しさについて、葛藤の理由を自我関与しながら語るることができる。さらに、健二が葛藤を乗り越えたときの考え方や感じ方について考え、その判断の理由について自我関与しながら多面的・多角的に検討することで、結果に責任をもつことが自らの責任によって生きる自信や人間としての誇りにつながることへの理解を深められるようにする。

本授業において、登場人物の心情やおかれた状況などの情報を生徒に示してから範読することで、教材の読み取り中心の授業にならないようにする。中心発問では、心情メーターを用いることで「言いたいけど言えない」のような葛藤や心の揺れを表出できるようにし、心情メーターの「そのままにする」意見に着目して指名をしながら話し合いを広げていくことで、誰にでもある無責任な考え方や感じ方に共感できるようにする。また、教師の指名だけでなく、生徒同士が指名をして意見を繋いでいくことで、より主体的な話し合いができるようにする。授業の終末では、再度めあてについて考えることで、授業を通して変容した自分の考えや普段の生活における自分自身の言動を振り返り、一人一人がめあてに対する納得解をもつことができるようにする。

### <板書計画>

めあて 自分の行動の結果に責任をもつとき、 どんな考え方を大切にしたらよいか 考えよう。	○健二が、気が重たかったのはどうして？ 〇謝りに行く？ そのままにする？ 謝りに行く そのままにする	◎健二が謝りに行くことを選んだのは どんな考え方からだろう。	〇健二が、気が重たかったのはどうして？ 〇謝りに行く？ そのままにする？ 謝りに行く そのままにする
---	---	-----------------------------------	---

4 本時の展開

(1) ねらい 自身の失敗を一度はごまかしてしまった健二が、周囲に流されず葛藤を乗り越えたときの考え方や感じ方について考えることを通して、結果に責任をもつことが自らの責任によって生きる自信や人間としての誇りにつながるという理解を深め、自分の意志で誠実に行動しその結果に責任をもとうとする道徳的判断力を育成する。

(2) 準備 教師用タブレット、生徒用タブレット

(3) 展開

	視点1 (5分) めあてに関心や問題意識、必要感をもって理解したか。	視点3 (30分) グループやクラス全体の対話を通して協働して問題解決をしているか。	◎ — 中心発問 ◇ — 補助発問	視点5 (15分) この時間の学びが自分にとって意味や価値があったと自覚しているか。
主な学習活動	○失敗等をごまかした経験を話し合い、その対極である「責任をもつ」ことに対して問題意識をもつ。(人間理解)	○健二の葛藤について考え、失敗を受け入れて謝ることが正しいと分かっている、実行できない難しさに共感する。(人間理解)	○健二の葛藤について自分だったらどうするかを自我関与しながら考えるとともに、健二が葛藤を乗り越えたときの考え方や感じ方について考え、その判断について自我関与しながら多面的・多角的に考える。(他者理解・価値理解)	○授業を通して深めた考えを基に、めあてについて再度考える。(価値理解)
発問	・失敗等をして自分の行いをごまかしたり、ごまかしたくなったりした経験はありますか。どんな考えでそうしてしまったのでしょうか。	・健二が、授業や部活動、翌日の登校のときも、気が重たかったのはどうしてだろう。	◎自分が健二だったら、謝りに行く？そのままにする？心情メーターに書き込みましょう。 ◇健二が最終的に先生に謝りに行くことを選んだのは、どんな考えからだろう？	・ここまで考えたことを基に、もう一度めあてについて考えましょう。 ・今日の授業を振り返りましょう。
生徒の意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題をやらないうで提出できなかったのを、持ってくるのを忘れたとごまかしたことがある。</li> <li>・自分がやったことを友達のせいにして逃げたことがあるな。</li> <li>・自分のせいにされたり怒られたりするの嫌だという気持ちや考えがあるな。</li> <li>・してしまったことを素直に認めるのは難しいな。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【めあて】 自分の行動の結果に責任をもつとき、どんな考え方を大切にしたらよいか考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大輔に言われてごまかしてしまったが、雄一のように、正直に話して謝ればよかった。</li> <li>・正直に話しに行きたいけれど、ごまかした大輔を裏切ることになってしまうな。</li> <li>・本当のことがバレたらどうしよう。</li> <li>・雄一に擦り付けてしまって申し訳ない。</li> <li>・本当のことを言えないままになってしまったので、もやもやした気持ちだな。</li> <li>・自分も同じような経験をしたことがあるので、健二の気持ちはよくわかる。</li> </ul>	<p>【行かないでそのままにする】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正直に伝えて先生に怒られるのが嫌だから。</li> <li>・大輔との関係が悪くなってしまからできない。</li> <li>・聞かれていないし、このままでも誰にも迷惑かからない。</li> </ul> <p>【謝りに行く】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行動しないでもやもやするのが嫌だから。</li> <li>・経験上、正直に言った方がよいことがある。</li> <li>・ごまかしている自分のことを好きになれない。</li> </ul> <p>【健二が謝りに行くことを選んだ理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が割ったのだから、謝るべき。</li> <li>・このまま謝らなかつたら後悔するから。</li> <li>・ずっと気が重たいままになるから。ごまかしたままは嫌だから。</li> <li>・雄一との関係が悪くなってしま。雄一にも申し訳ない。</li> <li>・自分も雄一のようにになりたい。堂々と自信をもって行動したい。</li> <li>・一度ごまかしたら、その後もずっとごまかすことが平気な人になってしまうから。ごまかすのが平気な人間にはなりたくない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・失敗してしまったことや自分がやってしまったことに対して、自分で最後まで責任をもつ方が、自分を好きになれるし、堂々と自信をもって生活できるのだと思った。</li> <li>・どんなことでも、他人に流されないうで、自分で考えて判断することが大切だな。</li> <li>・自分の行動には必ず責任があるからこそ、先のことを考えて行動する必要があるな。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価の視点】 行動の結果に責任をもつことが自らの責任によって生きる自信や人間としての誇りにつながることを理解し、自らの経験や他者の経験を踏まえて、自分の行動の結果に責任をもつことの大切さについて考えている。</p> </div>
教師の手立て関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前アンケートでごまかした経験を尋ね、その結果を提示することで、ごまかす気持ちは誰にでもあるという共通認識を作り、健二の葛藤に共感しやすくする。</li> <li>・登場人物の心情やおかれた状況などの情報を生徒に示してから範読することで、状況の理解を促し、教材の読み取り中心の授業にならないようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「怒られる」「もやもやする」などの自分自身に関する意見が多い場合には、大輔や雄一に対してはどう思うかを問いかける。</li> <li>・生徒自身の同じような経験について問うことで、健二の葛藤への共感や理解を促すとともに、自分のしたことを認めることや向き合うことへの難しさについて理解を深められるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心情メーターを用いて気持ちを可視化することで、明確に分けることのできない微妙な心の動きや葛藤の理由を、自分の経験や考えと関わらせながら語れるようにする。</li> <li>・「そのままにする」と答えた生徒が少ない場合は、導入の経験談で語っていたことを取り上げ、本当にできるのか問い返すことで、価値理解に迫れるようにする。</li> <li>・健二が謝ることを選んだ気持ちの変化について問うことで、葛藤を乗り越える判断をした要因となる考え方を焦点化し、結果に責任をもつことが自らの責任によって生きる自信や人間としての誇りにつながることへの理解を深められるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の終末で再度めあてについて考えることで、授業を通して変容した自分の考えや普段の生活における自分自身の言動を振り返り、一人一人がめあてに対する納得解をもつことができるようにする。</li> <li>・数人の生徒の納得解を紹介し共有することで、どんな結果であっても自分の行動には責任が伴うことへの理解を押しさえ、行動の結果に責任をもって判断するための考え方や感じ方について理解を深められるようにする。</li> </ul>